

ほんぶん
本文にかえる

2024/6/26

No.24

岩瀬和信



「りいこは、ためいきを一つついて、公園^{こうえん}をあとにしました。」斉藤^{さいとう}倫作^{りんさく}『まいごのかぎ』をみんなで声をそろえて読んでいます。

「坂^{さか}をくだると、大きな国道^{こくどう}にぶつかります。その向こう^{むこう}には、海^{うみ}がきらきらと光^{ひか}っています。」ここまで読むと、

一斉^{いっせい}に教科書^{きょうかしょ}を置きました。ここまですごい場面^{ばめん}の区切りです。

「はい、ここまでの場面、一言^{ひとこと}で言うとどんな場面？」

場面^{かめん}の確認^{かくにん}をしたあと、先生^{せんせい}が問いました。

「この『りいこ』っていう子^こはどんな子？」

「好奇心^{こうきしん}が旺盛^{おうせい}」「好奇心^{こうきしん}がありすぎて、いろんなことをやりまくる」「やりまくって、余計^{よけい}なことやっちゃう」

「どんな余計なこと？」先生^{せんせい}が突っ込みます。

「桜^{さくら}の木^きにかぎをさした」

「それ 1回^{かい}で余計なことを『やりまくっている』って言えるの？」先生^{せんせい}がまた問いました。

「図工^{ずこう}のときに、校舎^{こうしゃ}の絵^えがさみしいからって、そこにいないはずのウサギ^{うさぎ}を描いた」

ここで一人^{ひとり}がつぶやきました。「えーとさあ、桜^{さくら}の木^きにかぎをさしたのって、余計なこと

かなあ」さっきの発言^{はつげん}に対する疑問^{ぎもん}です。

同じ疑問^{ぎもん}を持ったもう一人^{ひとり}が言いました。「74ページ⁷⁴の後ろ^{うしろ}から5行^{ぎょう}目に『落^おとした人^{ひと}が、きっとこまっているにちがいない』って書いてあるから、りいこが、かぎ穴^{かぎあな}にさすのは余計なことじゃないと思う」

根拠^{こんきょ}は常^{つね}に本文^{ほんぶん}にあります。



正解は作者の頭の中にあるのではなく、表現の中にある。

(鈴木信一)